



慶應義塾大学
文学部人文社会学科

要 覧

2026^{年版}

図書館・情報学系 図書館・情報学専攻
大学院文学研究科 図書館・情報学専攻

慶應義塾大学
文学部人文社会学科

要 覧

2026 年版

図書館・情報学系 図書館・情報学専攻
大学院文学研究科 図書館・情報学専攻

e-mail: slis-info-group@keio.jp

<https://slis.flet.keio.ac.jp/>

目 次

はやわかり図書館・情報学	1
図書館・情報学専攻とは	2
略史	2

学部 学士課程

大学院 修士課程・後期博士課程

位置づけ	4	位置づけ	22
年次報告	5	年次報告	23
教員	6	教員	24
学生数	8	大学院生数	25
カリキュラム		カリキュラム	
コース	9	図書館・情報学分野の概要	26
専門科目	9	情報資源管理分野の概要	26
ゼミ(研究法と研究会)	10	修士論文	27
卒業論文	11	博士論文	27
取得できる資格	12	設置科目の目的と授業内容	
インターンシップと卒業後の進路	13	修士課程(図書館・情報学分野)	28
設置科目の目的と授業内容		修士課程(情報資源管理分野)	29
必修科目	14	後期博士課程	30
選択科目	14	修士論文題目	31
卒業論文題目	17	博士論文題目	32
入学の方法	18	入学の方法	33
特別学生(科目等履修生・特別聴講生)	20	特別学生(科目等履修生・研究生)	35

共通

奨学金	36
2025 年度時間割	38

はやわかり図書館・情報学

【図書館・情報学って何？】

人間や社会の経験・知識を伝達するための現象、技術、制度を学びます
古典籍から電子書籍、インターネットまで、人類のあらゆる知的資源が対象です
日本で専門的に学べる大学はあまりありません。慶應はこの学問のパイオニアです

【カリキュラムの特徴】

2年生は全員が必修科目を学び、3年からは3コースに分かれ、より専門的に学びます
全員が3年の秋学期からゼミ(研究法と研究会)に所属して、卒業論文の指導を受けます
文献やコンピュータだけでなく、人との触れ合いの中から学ぶことが求められます
司書資格を取得できます。3年生の夏休みに各種の図書館でインターンシップを行います

【3年生からの3コース】

A. 図書館コース

図書館や情報提供機関のサービスと運営を中心に、社会において知識と情報を活用するための仕組みについて全体的な理解を目指します。

B. 情報メディアコース

情報は情報メディアを通して生産、流通、利用されるという観点から、社会的制度、技術特性、人間の認知を踏まえながら、情報メディアが社会で果たす役割の理解を目指します。

C. 情報管理コース

広く情報管理を目的とする、情報処理、データ解析、情報アクセス・提供サービス、情報検索、情報組織化などの基本的な考え方と技術・技法の理解・習得を目指します。

【卒業後の進路】

図書館・情報学専攻を卒業してからの進路としては、国立国会図書館や大学図書館など各種の図書館やシンクタンク等の情報サービス業、新聞社などのマスコミ、出版社などの出版流通関係、SE/システムインテグレータやコンピュータ・ソフト関連の情報通信産業、企業の一般事務・営業職等があげられます。国立大学法人や地方公務員の採用試験を図書館・情報学で受けることもできます。従来から文学部の中では就職に恵まれていました。また、大学院への進学も大いに奨励されています。

WEB もチェック！

URL を入力するか、「図書館・情報学専攻」で検索

<https://slis.flet.keio.ac.jp/>

図書館・情報学専攻とは

図書館・情報学は、日本ではまだ限られた大学でしか開講されていない学問分野です。図書館・情報学は、人間や社会の経験や知識を記録し、伝達し、利用する一連の過程、そこにみられる現象、あるいは技術、制度を研究対象としています。

本専攻は、昭和 26(1951)年に「図書館学科」として始まり、昭和 43(1968)年に「図書館・情報学科」と改称しましたが、いずれも日本で初めて開設された学科です。平成 12(2000)年の文学部学科改組とともに、人文社会学科図書館・情報学系図書館・情報学専攻となりました。

本専攻で取りあげるのは、古代の記録から紙、さらに電子書籍やインターネットなどの最近の新しい媒体までを含んだ情報メディア、これらの情報メディアに蓄積された情報にアクセスするための情報検索、さらには、情報メディアの収集、提供、保存のための社会的な制度である図書館をはじめとする情報システムであり、それらを様々な観点から取り扱います。

図書館・情報学専攻の教育目標は「情報の視点から問題を発見して解決できる総合的な能力の習得」にあります。また、大学院では、(1)高度な情報専門家の養成と社会人の再教育、(2)図書館・情報学研究者の養成、をその目的として掲げ、特に(2)に関しては課程博士の育成に力を注いでいます。

卒業生は大学院を含め現在までに 2,500 名を数え、図書館や情報関連の分野をはじめとし、幅広い分野で活躍しています。卒業生組織として「SLIS 三田会」があります。

また、図書館・情報学研究の面では「三田図書館・情報学会」の母体となっています。

略史

図書館学(Library Science)の研究教育を目的として、Japan Library School の名称で日本最初の図書館学科が昭和 26(1951)年春に、慶應義塾大学文学部内に開設されました。当初、米国図書館協会から専門的援助を受け、海外から Robert L. Gitler 博士をはじめとする訪問教授を招いて発足しました。その後、学科の運営が軌道にのり、順調な発展を示すに従って訪問教授は減り、昭和 31(1956)年には全員が日本人教員となりました。昭和 41(1966)年には創立 15 年を迎え、これを機会として図書館学の発展に対応した研究教育体制とするために、翌昭和 42(1967)年度から情報学に重点を置いた大学院修士課程「図書館・情報学専攻」を開設しました。さらに、学部課程のカリキュラムを改訂し、学科の名称を「図書館・情報学科」と改めました。そして、より高度の研究者、教育者、専門職を育成するために、図書館・情報学博士課程を昭和 50(1975)年 4 月に開設しました。

この後、何度かのカリキュラム改訂を経て、平成 5(1993)年からは、図書館、情報メディア、情報検索の三つの(サブ)コースを導入した新しいカリキュラムを実施に移して現在に至っています。

平成 13(2001)年には創立 50 周年を迎え、祝賀式典と祝賀会を行いました。

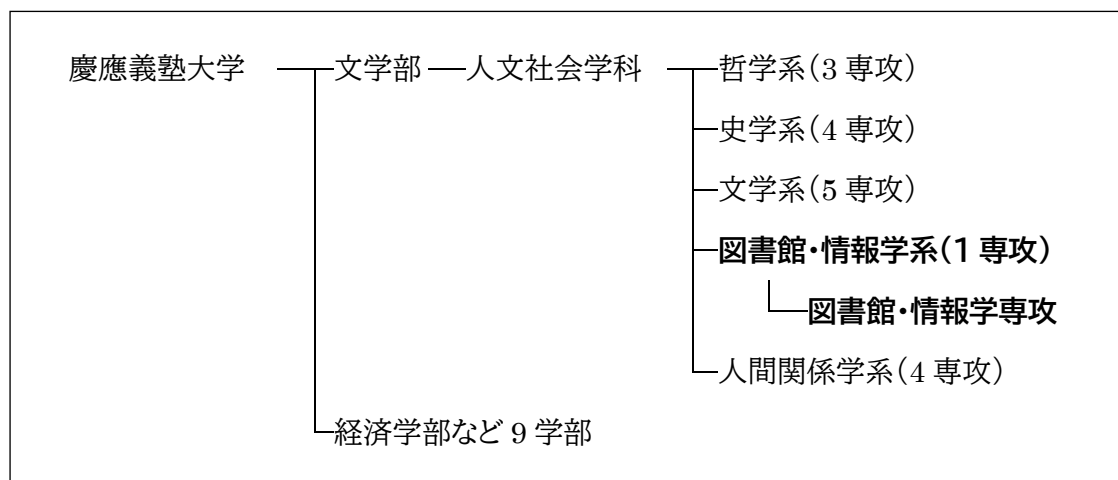
平成 16(2004)年 4 月には、大学院修士課程に、図書館員を中心とした情報関連専門家の再教育を目的とした「情報資源管理分野」を新しく設けました。

平成 31(2019)年 4 月の 3 年生より、情報検索コースの名称を情報管理コースに変更しました。

學士課程

学部における図書館・情報学専攻の位置づけ

図書館・情報学専攻は、慶應義塾大学文学部人文社会学科図書館・情報学系に属しています。この学系は1専攻のみから構成されています。



文学部では、第1学年を日吉キャンパスで学び、第2学年からは三田キャンパスで各専攻に属することになっています。第2学年では図書館・情報学の基礎となる必修科目を全員が履修しますが、第3学年の春学期からは、幅広い学問領域に対応するために、**図書館、情報メディア、情報管理**の3コースに分かれます。卒業論文は必修で、ゼミに所属して卒業論文を書きます。なお、ゼミ(研究法と研究会)は第3学年の秋学期から始まります。図書館・情報学専攻の最大受入数は60名です。

2025 年度年次報告

■ 学生数

2 年 59 名
3 年 47 名
4 年 50 名 (2025 年 4 月 1 日現在)

■ 学年暦

2025 年	4 月 1 日	専攻別ガイダンス 3 年生コース発表	
	4 月 8 日	春学期授業開始	
	7 月 1 日	3 年生ゼミ発表	
	7 月～9 月	インターンシップ(図書館実習)	実習機関 8 機関 実習者 8 名
	9 月 26～27 日	4 年生卒業論文中間発表	
	10 月 1 日	秋学期授業開始	
	10 月 21 日	4 年生卒業論文執筆要綱説明会	
	12 月 6 日	1 年生に対する専攻説明会	
	12 月 9～23 日	卒業論文提出	オンライン提出
2026 年	1 月 15 日	2 年生コース説明会	
	1 月 29～30 日	4 年生卒業論文面接	
	2 月 4 日・6 日	文学部 2 年編入試験	
	2 月 6 日	文学部学士入学試験	
	2 月 15 日	文学部入学試験	
	3 月 10 日	卒業発表	卒業 49 名
	3 月 20 日	ギトラー賞授与式	
	3 月 23 日	卒業式	

教員

■ 専任教員

岸田和明 文学部教授 教学マネジメント推進センター副センター長 情報管理
コース

◇ e-mail: kz_kishida@keio.jp

情報検索の理論・技術全般に関心を持ち、特に、統計学的方法によって検索性能の向上を目指す研究を行っています。また、検索実験の方法論や、文書の自動的な分類・クラスタリングについても興味を持っています。

担当科目(学部) 情報検索概説Ⅰ, データ解析論, 図書館・情報学研究調査入門, 情報管理基礎Ⅰ, 図書館・情報学概説, 図書館・情報学研究法(C), 図書館・情報学研究会Ⅰ・Ⅱ(A), 卒業試験(卒業論文)

池谷のぞみ 文学部教授 専攻担任 慶應義塾ミュージアム・commons機構長
情報メディアコース

◇ e-mail: nozomi.ikeya@keio.jp

種々の組織や集団に関わる人々が、活動のなかで行う知識や情報のマネジメントやそのしくみのデザインに関わる問題を中心に研究しています。エスノメソドロジーという学際的に参照されているアプローチをとり、しばしばエスノグラフィ(フィールドワークの一種)の手法を使う調査を通じて、対人サービス(例:医療領域, 図書館)や、種々の仕事における協働作業(例:IT デザイン)の実践における知識の創出, 共有, 体系化(知識のマネジメント)とそのしくみのデザインに関する考察を行っています。

担当科目(学部) 情報メディア基礎Ⅱ(C), 情報行動, 情報サービス概説, 社会情報論, 図書館・情報学概説, 図書館・情報学研究法(B), 図書館・情報学研究会Ⅰ・Ⅱ(C), 卒業試験(卒業論文)

安形麻理 文学部教授 専攻担任 慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター副所長 情報メディアコース

◇ e-mail: agatamari@keio.jp

写本から印刷本, 電子書籍に至るまで, 書物とそれを取り巻くものに広く関心があります。書物と人の関わり方や、読書の歴史, 西洋の初期印刷本を中心とする書物の物理的な特徴についての研究を行っています。また, 資料保存や, デジタルアーカイブ, 書物のデジタル化, デジタル技術を書誌学に応用することにも興味を持っています。

担当科目(学部) 図書館・情報学文献研究Ⅰ(C), 情報メディア基礎Ⅰ, 図書館・情報学研究調査入門, デジタル書物学Ⅰ・Ⅱ, デジタルアーカイブ論, 書誌学Ⅱ(西洋), 印刷メディア, 情報メディア概説, 図書館・情報学研究法(A), 図書館・情報学概説, 図書館・情報学研究会Ⅰ・Ⅱ(D), 卒業試験(卒業論文), 文献学の世界

松本直樹 文学部教授 専攻担任 文学部運営委員 図書館コース

◇ e-mail: matsumoton@keio.jp

公立図書館の制度・経営を中心に研究しています。特に, 外部環境との相互作用の中で公立図書館がどのように事業を形成しているかを, 行政学等、学際的アプローチを使って明らかにしてきました。得られた知見をもとに, コミュニティの知の拠点としての図書館のあり方を探っていきたいと考えています。

担当科目(学部) 図書館基礎Ⅰ, 図書館・情報学研究法(F) 公共図書館論, 図書館実習Ⅰ, 図書館実習Ⅱ, 図書館の制度と経営, 図書館・情報学概説

永崎研宣 文学部教授 専攻担任 慶應義塾ミュージアム・commons 兼担所員
情報管理コース

◇ e-mail: nagasaki@keio.jp

主に人文学や文化資料を対象としてデジタル技術を応用する研究分野としてのデジタル・ヒューマニティーズに取り組んでいます。特に、データ構築や利用における国際標準化に関して、東アジア文化圏の一角を成す日本文化の特徴を活かすための国際標準の検討と改定、それにあわせた活用ツールの開発などに注力しています。この分野ではデジタルアーカイブも一つの重要な要素であることから、日本のデジタルアーカイブにおける国際標準化に関しても理論・実践の両面から取り組んでいます。

担当科目(学部) 情報管理基礎Ⅱ(B), 情報資源組織論, 図書館・情報学研究法(D), 図書館・情報学研究会Ⅰ・Ⅱ(E) データベース論, 図書館・情報学概説, 卒業試験(卒業論文)

福島幸宏 文学部准教授 専攻担任 慶應義塾大学アート・センター運営委員
図書館コース

◇ e-mail: fukusima-y@keio.jp

MLA 連携やデジタルアーカイブを対象に、知識情報基盤の形成やその実際の運用について関心を持っています。デジタルコンテンツを使いこなすこと、ユニーク資料を確実に把握するという使命を果たすことで、MLA は社会全体の要請に応えられるようになって考えています。

担当科目(学部) 図書館基礎Ⅱ, デジタルアーカイブ論, 図書館・情報学研究法(E), 図書館・情報学研究会Ⅰ・Ⅱ(F), 卒業試験(卒業論文), 図書館・情報学概説, 社会科学特論Ⅰ(図書館・情報学)

宮田洋輔 文学部准教授 専攻担任 文学部図書委員長 慶應義塾大学アート・センター兼担所員
情報メディアコース・情報管理コース

◇ e-mail: miyayo@keio.jp

図書館情報学分野について研究しています。現在は、図書館情報学分野を事例として、学問分野が形成されていく過程に量的・質的両方のアプローチから取り組んでいます。メディアの利用やウェブに関する共同研究にも参加しています。

担当科目(学部) 情報管理基礎Ⅱ(A), 図書館・情報学文献研究Ⅰ・Ⅱ(A), 図書館実習Ⅰ, 図書館実習Ⅱ, 情報処理技術, 学術情報メディア論, 図書館・情報学研究法(G), 図書館・情報学概説, 基礎情報処理(M), 社会科学特論Ⅱ(図書館・情報学)

和気尚美 文学部助教(有期) **図書館コース**

◇ e-mail: wake@keio.jp

情報格差(デジタル・デバイド)が広がるなか、公共図書館は人びとの情報や文化への平等なアクセスをどのように保障しているか／今後保障していけるかということに関心があります。主に、移民・難民や、経済的困窮者など、社会的に不利な立場に置かれた人びとと公共図書館との関係について、関連する政策・制度や、図書館サービス、利用者の図書館利用などの点から研究しています。

担当科目(学部) 図書館・情報学文献研究ⅡC, 図書館・情報学概説, 応用情報処理Ⅲ(情報社会の光と影), 基礎情報処理(C・D・H), レポートの書き方

学士課程

非常勤講師

安形輝	亜細亜大学	応用情報処理 VI
阿久津達矢	埼玉大学	情報メディア基礎 II, レポートの書き方
岩瀬梓		情報管理基礎 II
一戸渉	慶應義塾大学	書誌学 I
上岡真紀子	帝京大学	情報メディア基礎 II, 情報サービス概説
江藤正己	学習院大学	ウェブ情報論
片桐宏道		図書館・情報学文献研究 I
門脇夏紀	駿河台大学	応用情報処理 II, 応用情報処理 V
鎌田和宏	帝京大学	学習指導と学校図書館
國本千裕	千葉大学	情報メディア基礎 II
小林仁		情報と職業
小山憲司	中央大学	大学図書館論
汐崎順子		児童サービス論, 子どもの本と読書
白川由佳	慶應義塾大学 KGRI	基礎情報処理
須賀千絵	実践女子大学	図書館・情報学文献研究 I・II
宗愛子	富士見中学高等学校	学校図書館論
高橋慈子	株式会社ハーティネス	情報と職業
中島玲子		応用情報処理 I, 図書館・情報学(通信教育), 情報メディア利用論
西川和	文教大学	基礎情報処理
野口武悟	青山学院大学	学校経営と学校図書館, 学校図書館メディア論
濱雄亮	東京交通短期大学	基礎情報処理
福田浩章	芝浦工業大学	基礎情報処理
藤巻峻	常磐大学	基礎情報処理
松林麻実子	筑波大学	情報認識の基礎
森山剛	東京工芸大学	応用情報処理IV
吉澤小百合		読書教育論

■ 2026 年度学生数

2 年	50 名	
3 年	53 名	
4 年	71 名	(2026 年 4 月 1 日現在)

カリキュラム

第2学年は全員が必修科目を、第3学年からは決めたコース毎に専門科目を選択します。なお、2018年度より新カリキュラムに移行しています。

■ コース

第3学年の最初にどのコースに所属するかを決めます。原則として、希望するコースに進むことができます。なお、毎年1月に、第2学年の学生に対してコースの説明会を行っています。

A. 図書館コース

図書館や情報提供機関のサービスと運営を中心に、社会において知識と情報を活用するための仕組みについて全体的な理解を目指します。

B. 情報メディアコース

情報は情報メディアを通して生産、流通、利用されるという観点から、社会的制度、技術特性、人間の認知を踏まえながら、情報メディアが社会で果たす役割の理解を目指します。

C. 情報管理コース

広く情報管理を目的とする、情報処理、データ解析、情報アクセス・提供サービス、情報検索、情報組織化などの基本的な考え方と技術・技法の理解・習得を目指します。

■ 専門科目

図書館・情報学専攻の専門科目は次のような構成となっています。

必修科目(第2学年基礎科目, 第3学年「図書館・情報学概説」, 研究法, 第4学年研究会, 卒業試験)	(22 単位)
指定選択科目	(18 単位)
— コース必修科目	
— コース選択科目	(8 単位以上)
選択科目(図書館・情報学専攻以外の設置科目)	(24 単位以上)

□ 第2学年

第2学年に履修する専門科目は、全員に共通の必修の基礎科目です。これらは各コースに対応した基礎科目群、および「図書館・情報学文献研究」から構成されています。各科目2単位を取得できます。

— 図書館基礎Ⅰ	— 図書館基礎Ⅱ
— 情報メディア基礎Ⅰ	— 情報メディア基礎Ⅱ
— 情報管理基礎Ⅰ	— 情報管理基礎Ⅱ
— 図書館・情報学文献研究Ⅰ	— 図書館・情報学文献研究Ⅱ

第2学年から第3学年に進学するためには(進級条件科目)、第2学年で修得しなければならない必修科目8科目16単位のうち6科目以上を修得する必要があります。

学士課程

□ 第3・第4学年

第3学年の年度初めのガイダンスで、三つのコースから一つのコースを選び、コースで定められた科目を履修します。全員共通の「図書館・情報学概説」および「図書館・情報学研究法」に加え、各コースの「コース必修科目」18単位、「コース選択科目」8単位以上を修得する必要があります。

【図書館コース】

コース必修科目(18単位)

図書館の制度と経営	情報メディア概説	情報資源組織論
情報検索概説Ⅰ	図書館・情報学研究調査入門	公共図書館論
大学図書館論	情報サービス概説	生涯学習概論(全専攻共通科目)

選択科目(8単位以上)

図書館実習Ⅰ・Ⅱ	児童サービス論	学校図書館論
情報認識の基礎	データ解析論	書誌学Ⅰ・Ⅱ
図書館・情報学特殊Ⅰ～Ⅲ	情報検索概説Ⅱ	
および、図書館コース以外のコース必修科目		

【情報メディアコース】

コース必修科目(18単位)

図書館の制度と経営	情報メディア概説	情報資源組織論
情報検索概説Ⅰ	図書館・情報学研究調査入門	印刷メディア
学術情報メディア論	社会情報論	ウェブ情報論

選択科目(8単位以上)

図書館実習Ⅰ・Ⅱ	児童サービス論	学校図書館論
情報認識の基礎	データ解析論	書誌学Ⅰ・Ⅱ
図書館・情報学特殊Ⅰ～Ⅲ	情報検索概説Ⅱ	
および、情報メディアコース以外のコース必修科目		

【情報管理コース】

コース必修科目(18単位)

図書館の制度と経営	情報メディア概説	情報資源組織論
情報検索概説Ⅰ	図書館・情報学研究調査入門	情報行動
情報処理技術	データベース論	デジタルアーカイブ論

選択科目(8単位以上)

図書館実習Ⅰ・Ⅱ	児童サービス論	学校図書館論
情報認識の基礎	データ解析論	書誌学Ⅰ・Ⅱ
図書館・情報学特殊Ⅰ～Ⅲ	情報検索概説Ⅱ	
および、情報管理コース以外のコース必修科目		

■ ゼミ(図書館・情報学研究法と図書館・情報学研究会)

いわゆる「ゼミ」は第3学年の後半(秋学期)から始まります。第3学年の科目名は「図書館・情報学研究法」で、全員が春学期に同じ科目を履修申告します。実際は各担当者が別個

に授業を行い、第4学年のそれぞれの研究会へ継続します。春学期末(6月末)にどの教員の研究会を選択するか志望票を提出して、その志望票に基づいて秋学期以後の研究法と研究会が決定されます。ただし、教員一人当たりの担当学生数には上限が定められており、希望通りにならない場合があります。

第4学年の図書館・情報学研究会(A～H)は、担当の教員別の科目を履修申告します。

■ 卒業論文

図書館・情報学専攻では全学生に卒業論文の提出を義務づけています。第4学年の図書館・情報学研究会が卒業論文指導にあてられ、卒業試験は卒業論文の審査をもって代えられます。

卒業論文を提出しなかったり、中間発表会や面接に欠席したりすると卒業できません。中間発表会から卒業発表までの例年の主なスケジュールは以下のとおりです。

9月中旬	卒業論文中間発表会
10月末～11月	卒業論文執筆要綱説明会
12月23日※	卒業論文提出締切
1月下旬	卒業論文面接
3月初旬	卒業発表

※23日が土日祝日の場合は、その前日

取得できる資格

■ 司書資格

司書資格の取得を希望する者は、以下の(1)(2)の両方の科目を修得した上で、図書館・情報学専攻を卒業する必要があります。

(1) 以下のすべての科目

図書館の制度と経営
児童サービス論

情報資源組織論
情報サービス概説

図書館実習Ⅰ・Ⅱ
生涯学習概論

(2) 以下の中から2科目以上

公共図書館論

大学図書館論

学校図書館論

■ 司書教諭資格

司書教諭資格の取得を希望する場合は、教諭免許取得に必要な科目に加えて、教職課程センターに設置された必要な科目を履修する必要があります。

インターンシップと卒業後の進路

■ インターンシップ

図書館・情報学専攻では、創設時から 60 年以上にわたって夏休みに図書館で実務経験を得るためのインターンシップを行ってきました。現在、図書館コースの「図書館実習」がインターンシップに該当する科目です。この科目は、図書館コースの他、司書資格を得ようとする学生が履修できます。原則として第 3 学年の夏休みの二週間、大学図書館、公共図書館、専門図書館、学校図書館で実務を学びます。

2025 年度にこのインターンシップにご協力下さったのは以下の 8 機関です。

- 慶應義塾大学 信濃町メディアセンター
- 慶應義塾大学 日吉メディアセンター
- 慶應義塾大学 三田メディアセンター
- s 慶應義塾志木高等学校図書館
- 東京大学附属図書館
- 早稲田大学図書館
- 東京都立中央図書館
- 埼玉県立熊谷図書館

■ 卒業後の進路

図書館・情報学専攻を卒業してからの進路としては、国立国会図書館や大学図書館など各種の図書館やシンクタンク等の情報サービス業、新聞社などのマスコミ、出版社などの出版流通関係、SE/システムインテグレータやコンピュータ・ソフト関連の情報通信産業、企業の一般事務職・営業職等があげられます。国立大学法人や地方公務員の採用試験を図書館・情報学で受けることもできます。従来から文学部の中では就職に恵まれていました。また、大学院への進学も大いに奨励されています。

設置科目の目的と授業内容

■ 必修科目

図書館・情報学文献研究

図書館・情報学分野の英語文献の講読を通じた専門用語、概念、最新の動向、研究の状況についての知識の習得。

図書館基礎Ⅰ

現代社会における図書館情報サービス、情報提供機関の必要性、意義、利用者の立場からみた各種の情報サービス形態。

図書館基礎Ⅱ

図書館で提供される情報サービスの基礎的考察：情報サービス実現のための要素、情報資源、専門職、施設・設備、業務の諸原則。

情報メディア基礎Ⅰ

図書、新聞、雑誌、デジタルメディア等の各種メディアの技術特性、生産・流通プロセス、社会的機能。

情報メディア基礎Ⅱ

各種メディアの検索方法の修得：資料組織化、検索ツールの概説とデータベース等を用いた検索の演習。

情報管理基礎Ⅰ

情報検索の基礎知識の習得：情報検索システムの事例の紹介、情報検索における蓄積過程、検索の仕組み、データベースの探索。図書館目録を含む。

情報管理基礎Ⅱ

コンピュータの基本操作と倫理の習熟：各種アプリケーションソフトウェアを用いた演習、インターネットの各種サービスの利用、ホームページの作成の実習等を通じて、情報の検索・入手・加工・提示など情報管理の基礎を学ぶ。

図書館・情報学概説

図書館情報学分野の主な研究領域の紹介、実社会におけるこの領域の知識とスキルの展開、図書館情報学の歴史。

図書館・情報学研究法

第3学年の研究指導。

図書館・情報学研究会 A～H

第4学年の卒業論文指導。

■ 選択科目

印刷メディア

印刷メディア：紙と印刷、出版産業の歴史と出版文化、出版流通機構、ブックデザイン、タイポグラフィ、読書。

ウェブ情報論

WWWの基礎から発展の方向、コンピュータ処理を念頭に置いたウェブデータの記述方法とその応用、Linked Dataと図書館の関わりなど。

学術情報メディア論

学術コミュニケーション：研究活動と学術情報の特性、学術コミュニケーションの機能、電子ジャーナル、オープンアクセス、研究データとオープンサイエンス。

学校図書館論

学校図書館活動の意義：教授学習過程と学校図書館、教育情報システムとしてのメディアセンター、学校図書館の機能と運営。

公共図書館論

公共図書館活動の意義：公共図書館の制度、理念、役割および児童サービス、障害者サービス、多文化サービス等の各種サービス、著作権など。

社会情報論

社会とメディア：社会における知識と情報の配分を担う組織やしくみの構成要素としてのメディアの成立と発展。

生涯学習概論[全専攻共通科目]

教育および生涯学習の原理と意義、生涯学習を实践する上で必要不可欠な関連法規、生涯学習の行財政・施策についての基礎的知識。

児童サービス論

児童資料の特徴、公立図書館の児童サービスに必要な知識と技能。

情報検索概説Ⅰ

情報検索システムの原理、仕組み、実際：図書館 OPAC や各種データベース検索システムからインターネットのサーチエンジンまでを対象とする、その機能・構成・評価法、および情報検索の発展的応用としての情報アクセス技術。

情報検索概説Ⅱ

情報技術を中心とした情報検索、情報提供。

情報行動

課題とその解決という観点からみた情報探索の諸問題：情報要求、情報源の探索・利用、要求の社会的文脈、情報源の選択と探索、仲介者の役割。

情報サービス概説

レファレンス・サービスを中心とした情報サービスの理解：レファレンス・サービスの意義と内容、レファレンス情報源の選択と組織化、レファレンスプロセス、参考質問とその処理(含演習)、情報リテラシー・サービス。

情報資源組織論

情報資源の組織化の理論と技術：図書館等における情報資源組織化を構成する書誌記述法(目録法)、主題分析・表現法(分類法、統制語彙)、それらを適用したメタデータの作成と流通の実態など。

情報処理技術

Java 言語によるプログラミングを通じてのテキスト処理。画像の処理、統計的なデータ処理。

情報認識の基礎

人間と情報現象の認識論的、存在論的な考え方の理解：記号論、社会学、哲学などの議論からみた情報、情報メディア、記号表現。

情報メディア概説

情報と情報メディア、情報メディアの歴史的変遷、情報メディアの特性とその影響。

書誌学Ⅰ

日本・中国の古典籍の特性と整理方法。

書誌学Ⅱ

西洋の古典籍を対象とした分析書誌学、批判書誌学の基礎。

大学図書館論

学術情報支援サービスとそのシステム：研究教育と大学図書館、大学図書館のサービス、運営管理、動向と将来。

データ解析論

データマイニングおよびテキストマイニングの諸手法。機械学習やクラスタリング、テキスト処理の技法を含む。

データベース論

学士課程

データベース構築の理論, 技術, 活用。リレーショナルデータベースの理論と実際 (概念設計, 論理設計から運用まで), XML によるデータ表現と管理。

デジタルアーカイブ論

本, ウェブ, 映像などの各種のデジタルアーカイブについての概説と, 資料のデジタル化, データ処理, メタデータ付与, データベース作成の演習。

図書館実習 I・II

夏休みに行う 2 週間のインターンシップ。実習先は, 塾内メディアセンターや幼稚園の図書室, それに他大学の大学図書館や公共図書館や専門図書館。

図書館・情報学研究調査入門

図書館・情報学分野の研究調査を実施する際に必要となる基礎知識。研究計画の策定, データ収集法, 統計的分析法, 内容分析の方法を含む。

図書館の制度と経営

図書館の関連法規, 図書館政策, 経営管理活動, 経営資源, サービス計画, 予算の確保, 調査と評価, 管理形態。

2025 年度卒業論文題目

執筆者氏名	研究会	卒業論文題目
新井詩織	福島	ブーム前後の刀剣特別展図録における構成とキャプション記述の分析
李ヒ珍	岸田	ギフト EC サイトの商品レビューを利用したパーソナライズ推薦アルゴリズムの構築
池田一智	池谷	ファクトチェック団体におけるメディア情報リテラシー教育の実態
石井大也	岸田	テキストマイニングによる社会人が抱える仕事の悩みの自動分類と因果構造の析出：アンケート代替手法としての可能性
石川貴大	永崎	公立図書館における蔵書の廃棄の分析とその特徴：横浜市中心図書館を対象に
伊藤哲	岸田	スマートフォンアプリレビューの自動要約による評価観点の析出
上原七海	永崎	電子資料長期保存における OAIS 参照モデルとの対応：慶應義塾大学三田メディアセンターと慶應義塾福澤研究センターへのインタビュー調査から
占部龍之介	福島	Reddit における Berghain の描写
枝松亜希子	岸田	新聞社のニュース記事における偏向報道の分析
王若彤	岸田	テキストマイニングによる株価変動予測：SVM, BERT, FinBERT の比較
王莉沙	安形	状況に応じた調理情報メディアの選択と利用行動の実態
大島春平	永崎	南方熊楠の菌類図譜を対象としたメタデータ付与と生物多様性データ及び文化資源データの接合可能性の検討
小川和晃	池谷	都道府県立図書館における指定管理者制度
小川陸斗	安形	マンガにおける文字要素のタイポグラフィと文字数の変遷
上村健太	安形	小説投稿サイトの作品コメント欄における読者コメントと返信の傾向から見る読者と作者のコミュニケーションの特徴
亀井翔平	岸田	メディアミックス作品に対する検索結果の自動分類
金頌亮	永崎	デジタルアーカイブはナラティブを変えるのか：日韓の被爆記憶形成
栗原楓維都	福島	J リーグファンの観戦能力を踏まえた効果的なサッカーデータの可視化
小林花	永崎	日本人形デジタルアーカイブ構築のためのメタデータ設計
近藤杏美	安形	慶應義塾図書館のインキュナブラコレクションの特徴
近野奈菜	永崎	行政文書におけるメタデータ設計の提案
芝本麟太郎	安形	マンガアプリのユーザーインターフェースが新しいマンガ作品との出会いに与える影響
末松美玖	池谷	2025 年参院選における大学生の情報行動と投票後の内省
鈴木翔之	岸田	コミックのあらすじとクチコミを用いた検索用タグの自動構築
鈴木海青	福島	デジタルアーカイブの教育現場での活用に向けて：S×UKILAM 連携ワークショップから
玉置咲月	池谷	ファッション分野におけるエシカル消費者の情報行動と関心の広がり

学士課程

執筆者氏名	研究会	卒業論文題目
張溪格	池谷	在日中国人留学生の食に関する情報源の使い分け
塚越貴政	岸田	プロット要約に基づく映画の複合的なジャンル推定
中川馨	池谷	就職活動における大学生の生成 AI の利用実態
中込麻唯	岸田	自由記述回答の要約におけるトピックモデルの比較
中野美咲	岸田	レビューに基づく小説推薦手法の比較
永淵希佳	福島	東京 23 区内公立図書館における視聴覚資料のコレクション形成:邦楽 CD(ポピュラー音楽)を中心に
中村有里	安形	読書バリアフリーへの理解を広めるための公立図書館における試み:ディスレクシアを中心に
生川美羽	岸田	歌詞に対する感情分析に基づく楽曲推薦
菱田有紗	岸田	銀行アプリレビューに対する BERTopic と ChatGPT を用いた内容分析
比留間杏奈	池谷	公共図書館における疑似科学的資料の所蔵状況:東京都内を対象に
廣田のどか	安形	都道府県単位で作成された中高生向けブックリストと掲載書の傾向
堀萌々華	池谷	対面朗読サービスから考える視覚障害者向けサービス:公立図書館を中心に
前田佳厘	安形	大学生のひとり旅とグループ旅行における情報行動の特徴
松谷萌花	岸田	子供向け施設に対するレビューの分析とそれに基づく施設評価の試み
松村龍之介	岸田	SNS データを用いた選挙結果予測モデルの構築
湊原花歩	池谷	公共図書館の多文化サービスにおける地域連携の可能性
宮下凌輔	福島	公共図書館における地域資料のデジタルアーカイブの実態と課題:佐川町デジタルアーカイブを対象に
文視ユン	池谷	公共図書館と少年矯正施設との連携実態
森翠月	池谷	高齢者の健康食品・サプリメント購入時における情報行動
森田真央	安形	ブックリストの分析に基づく「大人に勧められる絵本」の特徴
山口巖	池谷	若者のフェイクニュースに対する真偽調査の過程の調査
山崎未穂	安形	大学生の音楽発見における情報行動 :音楽サブスクリプションの利用を中心に
山本莉央	福島	デジタルアーカイブの利用向上に向けた課題分析:中学生・高校生へのインタビュー調査をもとに
尹珠寧	池谷	外国人向け防災・災害時情報提供に関する取り組み:東京都内の言語ボランティアを中心に
劉禹含	永崎	日本の大学図書館における座席予約制度導入の可能性と課題ー利用行動分析と他国制度比較に基づく検討ー

入学の方法

図書館・情報学専攻で学ぶためには慶應義塾大学文学部に入学する必要があります。文学部では、塾内進学の外に、次の入試制度により学生を受け入れています。

略称	制度名	入試時期
一般入試	一般入学試験	2 月
推薦入試(自主応募)	自主応募制による推薦入学者制度	11 月
帰国生入試	帰国生対象入学試験	9 月
留学生入試	外国人留学生試験	1 月
2 編入試	第 2 学年編入試験	2 月
学士入試	学士入学試験	2 月

■ 一般入学試験

1 月下旬に出願を受け付け、2 月 15 日頃に入学試験を行い、合格発表は 2 月 25 日頃というのが通常の日程です。試験科目は以下の 3 科目です。

外国語	英語(コミュニケーション英語基礎・コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ)・ドイツ語・フランス語・中国語のうち 1 科目選択
地理歴史	世界史 B, 日本史 B のうち 1 科目選択
小論文	資料を与えて、理解と表現の能力を総合的に問う

<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/general-admissions/>

■ 自主応募制による推薦入学制度

11 月初めに出席を受け付けています。「調査書」、「評価書」、「自己推薦書」、「総合考査Ⅰ」、「総合考査Ⅱ」により選考を行います。総合考査(小論文形式)は例年、11 月下旬に行われています。合格発表は 11 月末です。

<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/faculty/examinations/recommendation-self/>

■ 外国人留学生対象入学試験

日本以外の国において、当該国の学校教育制度に基づく中学校および高等学校の課程を修了した者等に外国人留学生対象入学試験を行っています。出願の受付は 10 月から 11 月初めにかけてで、1 月に書類、面接および日本語作文によって選考が行われます。

<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/faculty/examinations/international-student/>

この他に、慶應義塾大学在籍学生と卒業生は、第 2 学年編入学試験と学士入学試験によって、図書館・情報学専攻に入ることができます。

■ 第2学年編入学試験

文学部を除く慶應義塾大学在籍の第 1 学年修了者(または見込みの者)で、かつ入学後 1 年以上在籍見込みの学生で総合教育科目に関する要件を満たしている者は、第 2 学年編入学試験を受験して文学部に転部することができます。毎年 1 月上旬に出願を受け付け、2 月上旬に試験、合格発表が行われています。

<https://www.students.keio.ac.jp/com/career/placement/trans.html>

学士課程

■ 学士入学試験

慶應義塾大学学部および慶應義塾大学通信課程卒業者（見込みを含む）は、学士入学試験を受験できます。毎年1月上旬に出願を受け、2月上旬に試験、合格発表が行われています。

<https://www.students.keio.ac.jp/com/career/placement/bachelor.html>

⇒入学試験の詳細は下記に問い合わせして下さい。

慶應義塾大学 入学センター

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

TEL: 03-5427-1566(直通)

受付時間 月～金(祝祭日を除く) 9:00～11:30, 12:30～16:30

※ただし開校記念日(4/23)・夏季休業・冬季休業・福澤先生誕生記念日(1/10)は閉室

<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/faculty/faq/contact/>

特別学生

また、正規の学生としてではなく、特別学生(科目等履修生, 特別聴講生)として図書館・情報学専攻の科目の履修・聴講ができます。

■ 学部 科目等履修生

10 単位(5 科目)までの単位の修得を目的として履修する, 科目等履修生を受け入れることがあります。毎年, 春学期は 2 月下旬～3 月に, 秋学期は 8 月下旬～9 月上旬に出願を受け付けています。履修した科目の試験を受け, 合格すれば単位と成績を修得することができます。

■ 学部 特別聴講生

10 単位(5 科目)まで, 単位の修得を目的とせず聴講する, 特別聴講生を受け入れることができます。毎年, 春学期は 2 月下旬～3 月に, 秋学期は 8 月下旬～9 月上旬に出願を受け付けています。聴講科目の試験を受けることはできず, 単位と成績は修得できません。

⇒科目等履修生と特別聴講生については下記に問い合わせして下さい。

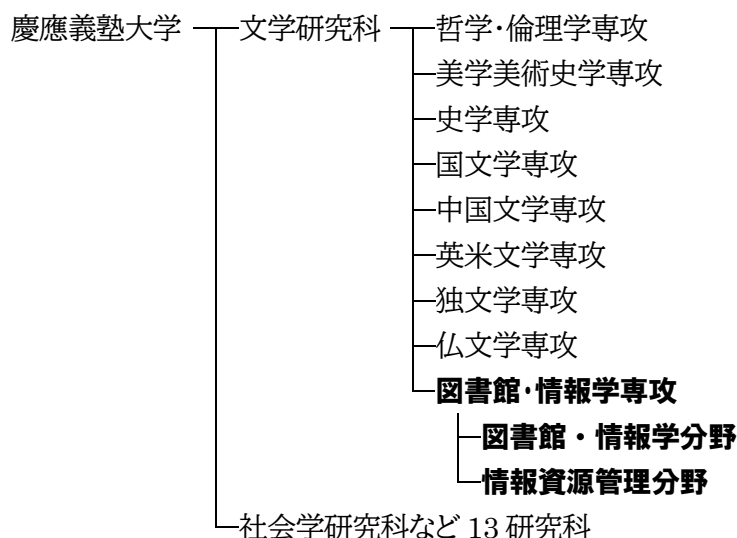
慶應義塾大学 学生部文学部係
〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45
TEL: 03-5427-1555(直通)
受付時間 月～金(祝祭日を除く) 8:45～16:45
※ただし開校記念日(4/23)・夏季休業・冬季休業・福澤先生誕生記念日(1/10)は閉室
<https://www.students.keio.ac.jp/com/other/non-degree/index.html>

修 士 課 程 •
後 期 博 士 課 程

大学院における図書館・情報学専攻の位置づけ

図書館・情報学専攻は、図書館・情報学の研究の発展と、高度な情報関連の専門家の養成を目的として、昭和 42(1967)年に慶應義塾大学文学研究科修士課程として設置されました。さらに、研究者の育成のために、後期博士課程が昭和 50(1975)年 4 月に開設されました。

図書館・情報学専攻は、慶應義塾大学文学研究科に属しています。2004 年度からは、修士課程に情報資源管理分野を設け、修士課程の1学年の定員は 20 名となりました。2006 年度からは、後期博士課程について、定員は 5 名のままでありますが昼夜開講としました。



■ 情報資源管理分野の新設(2004 年)

新しく設置された「情報資源管理分野」は、図書館員を中心とした情報関連専門家の再教育を目的としています。これは、大学院における専門職教育を求める機運の高まり、従来からの図書館現職者の再教育の必要性といった、社会的な要請に応えることを目指しています。特に要望の強い最新の情報技術、図書館や情報センターの運営などの知識を学ぶ機会を設け、現職者と教員との討議を通じて問題解決能力の向上を図ります。

この分野の定員は1学年 10 名で、いわゆる学術大学院の枠組みのもとで設置され、修了に必要なとされる単位数、修士論文の要件、学位(「修士(図書館・情報学)」)はこれまでと同じです。なお、授業は夜間と土曜日に開講しています。

修士課程・後期博士課程

2025 年度年次報告

■ 大学院生数

修士課程	図書館・情報学分野	1 年	5 名	
		2 年	0 名	
	情報資源管理分野	1 年	7 名	
		2 年	4 名	
博士課程		1 年	3 名	
		2 年	2 名	
		3 年	5 名	

(2025 年 4 月 1 日現在)

■ 学年暦

2025 年	4 月	1 日	大学院入学式 大学院ガイダンス		
	4 月	7 日	春学期授業開始		
	6 月	9 日	第 2 回修士論文中間発表会(情報資源管理分野)		
	7 月	5 日	大学院説明会(図書館・情報学分野, 情報資源管理分野)		
	7 月	21 日	GSLIS 研究フォーラム		
	9 月	9・11 日	修士課程入学試験	図書館・情報学分野	2 名合格
				情報資源管理分野	1 名合格
	9 月	11 日	情報資源管理分野アドバイザーコミッティ評価委員会		
	10 月	1 日	秋学期授業開始		
	10 月	13 日	第 3 回修士論文中間発表会(情報資源管理分野)		
2026 年	11 月	17 日	第 4 回修士論文中間発表会(題目提出前面接)		
	12 月	6 日	大学院説明会(図書館・情報学分野, 情報資源管理分野)		
	1 月	23～30 日	修士論文提出(オンライン)		
	2 月	2 日	第 1 回修士論文中間発表会(図書館・情報学分野, 情報資源管理分野)		
	2 月	19 日	修士論文面接		
	2 月	24・26 日	後期博士課程・修士課程入学試験		
			後期博士課程		2 名合格
			修士図書館・情報学分野		3 名合格
			修士情報資源管理分野		0 名合格
	3 月	20 日	小林賞授賞式		
	3 月	23 日	学位授与式		
			修士課程修了者	図書館・情報学分野	0 名
				情報資源管理分野	4 名
			博士課程	博士号取得者	1 名
				単位取得退学者	0 名

教員

■ 専任教員と担当科目

各教員の関心領域については p. 6-8 をご覧ください。

岸田和明	文学部教授 文学研究科委員 文学研究科学習指導
図書館・情報学分野	情報検索特殊講義Ⅰ・Ⅱ, 情報検索特殊講義演習ⅠB・ⅡB, 調査研究法Ⅰ
情報資源管理分野	情報資源管理特殊講義Ⅲ, 情報資源管理特殊講義演習ⅠA・ⅡA, 情報資源管理特殊講義XⅣ
博士課程	情報検索特殊研究Ⅲ・Ⅳ, 情報検索特殊研究Ⅴ・Ⅵ
大学院共通	データサイエンス超入門(テキストデータ), データサイエンス実践
池谷のぞみ	文学部教授 文学研究科委員
図書館・情報学分野	情報メディア特殊講義Ⅲ・Ⅳ, 情報メディア特殊講義演習ⅠB・ⅡB
情報資源管理分野	情報資源管理特殊講義演習ⅠB・ⅡB, 情報資源管理特殊講義Ⅶ・Ⅷ
博士課程	情報メディア特殊研究Ⅲ・Ⅳ, 情報メディア特殊研究Ⅴ・Ⅵ
大学院共通	リサーチ・スキルズ
安形麻理	文学部教授 文学研究科委員
図書館・情報学分野	情報学特殊講義Ⅲ・Ⅳ, 情報学特殊講義演習Ⅰ・Ⅱ, 情報分析論Ⅰ・Ⅱ, 調査研究法Ⅰ
情報資源管理	情報資源管理特殊講義演習ⅠC・ⅡC, 情報資源管理特殊講義Ⅳ・XⅢ
博士課程	情報システム特殊研究Ⅰ・Ⅱ, 情報学特殊研究Ⅲ・Ⅳ, 情報システム特殊研究Ⅴ・Ⅵ
文学研究科	人文学研究の方法論Ⅰ・Ⅱ(デジタル・ヒューマニティーズ)
松本直樹	文学部教授 文学研究科委員
図書館・情報学分野	情報システム特殊講義Ⅰ・Ⅱ, 情報システム特殊講義演習Ⅰ・Ⅱ
情報資源管理分野	情報資源管理特殊講義演習ⅠD・ⅡD, 情報資源管理特殊講義Ⅰ・Ⅱ
永崎研宣	文学部教授 文学研究科委員
情報資源管理	情報資源管理特殊講義XⅠ・XⅡ, 情報資源管理特殊講義演習ⅠE・ⅡE
図書館・情報学分野	情報検索特殊講義Ⅲ・Ⅳ, 情報検索特殊講義演習ⅠA・ⅡA
博士課程	情報検索特殊研究Ⅰ・Ⅱ, 情報メディア特殊研究Ⅰ・Ⅱ
文学研究科	人文学研究の方法論Ⅰ(デジタル・ヒューマニティーズ)

修士課程・後期博士課程

福島幸宏 文学部准教授

担当科目(情報資源管理) 情報資源管理特殊講義Ⅴ・Ⅵ, 情報資源管理特殊講義演習Ⅲ・Ⅳ

担当科目(博士課程) 情報学特殊研究Ⅶ・Ⅷ

宮田洋輔 文学部准教授

大学院共通 リサーチ・スキルズ

■ 非常勤講師

安形輝 亜細亜大学 情報資源管理特殊講義ⅩⅦ

池内淳 筑波大学 調査研究法Ⅱ, 情報資源管理特殊講義ⅩⅤ

谷口祥一 慶應義塾大学名誉教授 情報資源管理特殊講義Ⅸ・Ⅹ

長谷川敦史 早稲田大学 情報資源管理特殊講義ⅧⅢ

■ 大学院生数

修士課程	図書館・情報学分野	1年	3名	(2026年4月1日現在)
		2年	5名	
博士課程	情報資源管理分野	1年	4名	
		2年	7名	
		1年	0名	
		2年	3名	
		3年	7名	

カリキュラム

■ 図書館・情報学分野の概要

大学院のカリキュラムは、修士課程開設以来、情報システム、情報メディア、情報検索(情報処理)を大きな柱として構成されてきました。

修士課程の第1学年には、約 40 単位ほど開講されている科目群の中から自由に選択できます。ただし、修士論文指導科目(科目名が「・講義演習」となっている科目)と、研究論文紹介とその検討を行う抄読会(「情報分析論Ⅰ,Ⅱ」)は必修科目です。また、指導教授の許可により他の専攻等で開講されている科目を履修することもできます。

大学院学則では、32 単位を取得した後に、指導教授の指導のもとで、修士論文を執筆することができるようになっています。修士課程の第2 学年には、修士論文を執筆します。

博士課程では、指導教授の指導のもとで、博士論文執筆のための研究を行います。博士論文を提出し学位を取得するか、毎年、4 単位ずつ、3 年間に 12 単位を修得すれば、課程を終えることになります(単位取得退学)。

なお、2006 年度から大学院の後期博士課程を昼夜開講としました。これにより夜間に開講される科目のみを履修して博士課程を終えることができるようになりました。

■ 情報資源管理分野の概要

2004 年度から設けられた情報資源管理分野は、図書館運営とそれに必要な情報技術、最近の図書館における動向を中心とした実務者に向けたカリキュラムとなっています。図書館の種類は限定していませんが、公共図書館と大学図書館については専門的な科目を設けています。

修士論文指導科目(情報資源管理特殊講義演習Ⅰ,Ⅱ)と、研究論文紹介とその検討を行う抄読会(情報資源管理特殊講義演習Ⅲ,Ⅳ)が必修科目です。

大学院学則では、32 単位を取得した後に、指導教授の指導のもとで、修士論文を執筆することができるようになっています。修士課程の第2 学年には、修士論文を執筆します。

なお、図書館・情報学分野に属する場合は情報資源管理分野の科目を 4 科目 8 単位まで、また、情報資源管理分野に属する場合は図書館・情報学分野の科目を 4 科目 8 単位まで、それぞれ履修できます。

修士課程・後期博士課程

■ 修士論文

修士課程では修士論文を提出し合格することが修了の要件となっています。修士論文の作成にあたっては、3回にわたる全大学院生と全教員が参加する中間発表会でその進展状況を発表することになっています。毎年、11月に修士論文の題目を、1月末日までに論文を、学生部に提出します。2月下旬に修士論文面接があり、合否が決まります。

■ 博士論文(学位請求論文)

博士課程の目的は、研究に基づき博士論文を提出し、学位を得ることにあります。文学研究科では博士課程に入学後、6年の間に学位請求論文(課程博士)を提出した場合には、課程による博士としての審査を受けることができます。

また、博士課程に入学後、6年以上を経過した場合、あるいは当専攻の博士課程に在籍したことがない場合には、規程に従い、学位請求論文(論文博士)を提出し、論文博士としての審査を受けることができます。

図書館・情報学専攻では課程博士および論文博士のそれぞれについて「博士学位請求論文の申請および審査に関する内規」が、文学研究科のサイトにおいて公開されています。

<https://www.keio.ac.jp/ja/gsl/major/library-and-information-science/>

設置科目の目的と授業内容

単位数は全科目 2 単位です。

■ 修士課程:図書館・情報学分野

情報学特殊講義Ⅰ

日本社会で図書館をめぐる状況について歴史文化論的に考察する。題材を図書館情報学史、書物史、メディア史、教育史といったところに求める。

情報学特殊講義Ⅱ

国際的な教育、文化、専門職のコンテキストにおいたときの日本の図書館の特徴を文献購読によって明らかにする。

情報学特殊講義Ⅲ・Ⅳ

図書館・情報学の基本文献の講読。

情報学特殊講義演習Ⅰ・Ⅱ

修士論文指導。

情報メディア特殊講義Ⅰ

情報伝達に関わる多様な情報メディアのメディア特性、利用動向、社会的機能を検討。

情報メディア特殊講義Ⅱ

研究活動の特性と学術コミュニケーションに関わる多様な情報メディアを検討。

情報メディア特殊講義Ⅲ・Ⅳ

知識を社会的に配分することならびにアクセスを可能にするための実践の理解、ならびに日常生活や仕事におけるひとびとの情報実践の理解、それらを踏まえたサービスのデザインの手法。

情報メディア特殊講義演習Ⅰ・Ⅱ

修士論文指導。

情報検索特殊講義Ⅰ・Ⅱ

情報検索の高度化に結びつく基本的なアプローチ・理論・技術。

情報検索特殊講義Ⅲ・Ⅳ

情報と情報資源の組織化の理論と技術:メタデータの設計・作成・活用, 分類法と統制語彙/オントロジー, ウェブにおけるリンクドデータなど。

情報検索特殊講義演習Ⅰ・Ⅱ

修士論文指導。

調査研究法Ⅰ

図書館・情報学における研究課題の設定, 研究方法, 学術論文の書き方および成果の口頭発表法について, 講義と演習を通してその基本を理解し身につけることを目標とする。具体的な事例を題材にした演習課題に取り組み, その一連のステップをなぞることによって基本を理解し身につけることを意図する。

調査研究法Ⅱ

社会調査の基本と調査・統計データの分析(検定・回帰)について学ぶ。

情報分析論Ⅰ・Ⅱ

抄読会。

修士課程・後期博士課程

■ 修士課程:情報資源管理分野

情報資源管理特殊講義Ⅰ

各種図書館の国レベルの政策実態を取り上げて、その現状と課題を受講生の実務経験に照らしながら、具体的かつ実践的に検討する。

情報資源管理特殊講義Ⅱ

図書館の種類を限定することなく図書館経営上の諸問題を取り上げて、その解決に向けた方策を受講生の実務経験に照らしながら、具体的かつ実践的に検討する。

情報資源管理特殊講義Ⅲ

図書館評価の意義と方法を理解し実施計画を立てることができることを目標に、図書館評価について学び、課題として実際に図書館評価計画に取り組む。

情報資源管理特殊講義Ⅳ

書物のデジタル化は1990年代後半に図書館の貴重書や特殊コレクションを対象に始まり、21世紀になるとその対象や規模が急激に拡大してきた。この授業では、書物のデジタル化をめぐる最新の動向や関連技術をふまえ、資料保存、書物研究の新たな動向、教育や研究の支援とのかかわりについて、解説と受講生によるディスカッションを通じて検討する。

情報資源管理特殊講義Ⅴ・Ⅵ

図書館職を知識プロフェッションにとらえ、その資格と養成教育、雇用と研修、館種ごとの問題状況、隣接職種との関係、世界的な動向について検討する。

情報資源管理特殊講義Ⅶ

図書館がウェブ上で利用者に向けて提供するサービスの内容及び提供方法の広がり、考慮すべき点、その評価。

情報資源管理特殊講義Ⅷ

レファレンス・サービスを中心とする利用者サービスの提供に必要な知識および課題について、演習・発表・議論による理解と検討。

情報資源管理特殊講義Ⅸ・Ⅹ

情報と情報資源の組織化を広範に取り上げる。図書館等における組織化を主対象にして、1)メタデータの設計・管理(情報資源の概念モデリングとその他のメタデータ設計プロセス)、2)メタデータ作成・提供の実態とそのシステム、3)主要標準(代表的な概念モデルやメタデータスキーマなど)、4)主題分析、統制語彙、分類法など、それぞれについて最新の状況を含めて取り上げる。

情報資源管理特殊講義Ⅺ・Ⅻ

学術コミュニケーションのデジタル化とオープン化を踏まえ、受講生による発表とディスカッションを通して、学術コミュニケーションの現状の課題と将来を検討する。

情報資源管理特殊講義ⅩⅢ・ⅩⅣ

図書館・情報学における研究課題の設定、研究方法、学術論文の書き方および成果の口頭発表法について、講義と演習を通してその基本を理解し身につけることを目標とする。具体的な事例を題材にした演習課題に取り組み、その一連のステップをなぞることによって基本を理解し身につけることを意図する。

情報資源管理特殊講義ⅩⅤ・ⅩⅥ

社会調査の基本と調査・統計データの分析(検定・回帰)について学ぶ。

情報資源管理特殊講義ⅩⅦ・ⅩⅧ

図書館業務に関連する最新の情報処理・ネットワーク技術について学ぶ。

情報資源管理特殊講義演習Ⅰ，Ⅱ

少人数の研究会で修士論文執筆指導を行う。

情報資源管理特殊講義演習Ⅲ，Ⅳ

毎回 3 人程度の受講生が図書館情報学分野の最新論文を読み、一定の形式にまとめて発表する。その後、専攻の全教員を含む出席者全員で当該論文に関するディスカッションを行う。

■ 後期博士課程

情報学特殊研究Ⅰ

情報学に関する研究指導。

情報学特殊研究Ⅱ

情報学に関する研究指導。

情報学特殊研究Ⅲ

抄読会。

情報学特殊研究Ⅳ

抄読会。

情報学特殊研究Ⅴ

情報学に関する研究指導。

情報学特殊研究Ⅵ

情報学に関する研究指導。

情報学特殊研究Ⅶ

抄読会。

情報学特殊研究Ⅷ

抄読会。

情報メディア特殊研究Ⅰ

情報メディアに関する研究指導。

情報メディア特殊研究Ⅱ

情報メディアに関する研究指導。

情報メディア特殊研究Ⅲ

情報メディアに関する研究指導。

情報メディア特殊研究Ⅳ

情報メディアに関する研究指導。

情報メディア特殊研究Ⅴ

情報メディアに関する研究指導。

情報メディア特殊研究Ⅵ

情報メディアに関する研究指導。

情報検索特殊研究Ⅰ

情報検索に関する研究指導。

情報検索特殊研究Ⅱ

情報検索に関する研究指導。

情報検索特殊研究Ⅲ

情報検索に関する研究指導。

情報検索特殊研究Ⅳ

情報検索に関する研究指導。

情報検索特殊研究Ⅴ

情報検索に関する研究指導。

情報検索特殊研究Ⅵ

情報検索に関する研究指導。

情報システム特殊研究Ⅰ

情報システムに関する研究指導。

情報システム特殊研究Ⅱ

情報システムに関する研究指導。

情報システム特殊研究Ⅲ

情報システムに関する研究指導。

情報システム特殊研究Ⅳ

情報システムに関する研究指導。

情報システム特殊研究Ⅴ

情報システムに関する研究指導。

情報システム特殊研究Ⅵ

情報システムに関する研究指導。

2025 年度修士論文題目

■ 図書館・情報学分野

なし

■ 情報資源管理分野

執筆者氏名	指導教員	修士論文題目
飯田 恭平	岸田	日本の大学におけるデータサイエンス科目のシラバスに対するテキスト分析の方法
浅田 杏奈	池谷	対話を醸成する公共図書館:対話の方法論が導入されたプログラムの事例分析
金城 沙弥香	岸田	情報リテラシーを測定するための尺度の改良:テスト理論に基づく次元縮約の適用を通じて
小林 希	池谷	公共図書館における住民参加型の地域資料サービス:神奈川県立図書館地域史編纂プログラムの事例に基づいて

2025 年度博士論文題目

■ 課程博士

なし

■ 論文博士

執筆者氏名	指導教員	博士論文題目
張 心言	池谷	高齢者の社会参加における公共図書館の役割：プログラムのデザインと実践

修士課程・後期博士課程

入学の方法

大学院修士課程と博士課程の入学試験の時期は次のとおりです。

課程	入試時期
修士課程	秋期(9月後半)および春期(2月下旬)
後期博士課程	2月下旬

■ 修士課程

大学院の修士課程入学試験は秋期と春期の2回行われます。例年、秋期への出願は7月後半に受け付け、9月後半に入学試験が行われます。春期は、1月前半に出願を受け付け、2月下旬から3月上旬に試験が実施されます。

□ 図書館・情報学分野

大学学部卒業(見込み)を出願資格とします。なお、司書資格の有無や卒業学部について、制約は一切ありません。

入試科目は、第一次試験は「専門科目(図書館・情報学)」,「英語」の2科目です。第二次試験は口頭試問です。

□ 情報資源管理分野

文学研究科修士課程出願資格および以下の1)2)の両方を満たす必要があります。

- 1) 大学卒業後3年以上であること
- 2) 図書館等における実務経験あるいは司書資格を有すること

入試科目は、第一次試験は専門科目(図書館・情報学)の1科目、第二次試験は口頭試問です。

⇒修士課程入学試験の詳細は下記の入学センターのページを参照して下さい。

<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/grad/master/gsl/>

■ 後期博士課程

大学院の博士課程の入学試験は春季のみです。出願は、毎年1月前半に受け付け、2月下旬から3月上旬に入学試験が行われます。大学院修士課程または専門職学位課程修了(見込み)を出願資格とします。入試科目は、第一次試験は専門科目(図書館・情報学),「外国語」(英語)の2科目です。第二次試験は口頭試問です。

⇒後期博士課程入学試験の詳細は下記の入学センターのページを参照して下さい。

<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/grad/doctoral/gsl/>

修士課程と博士課程入学試験の筆記試験の過去の試験問題は、以下の方法で閲覧できます。

- (1) 【公開中止中】三田キャンパス 南校舎 地下1階 三田学生部
閲覧時間:月～金(祝祭日を除く) 8:45～16:45

※開校記念日(4/23)・夏季休業・冬季休業・福澤先生誕生記念日(1/10)は閉室
※写真撮影(携帯電話を含む)や複写(手書きおよびパソコンやスマートフォンによる
入力を含む)はできません。

(2) ウェブでの閲覧(専門科目のみ)

修士課程: <https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/grad/master/past-exams/>

博士課程: <https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/grad/doctoral/past-exams/>

図書館・情報学分野を受験する場合には、指導教授の選択が必要となりますので、できれば、あらかじめ本専攻の教員にご相談下さい。

■ 問い合わせ先

入学試験の詳細は以下の部署に問い合わせして下さい。

□ 修士・博士課程入学試験

三田学生部大学院入試担当

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

TEL: 03-5427-1067(直通)

e-mail: grad_admissions@info.keio.ac.jp

<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/grad/faq/contact//>

修士課程・後期博士課程

特別学生

正規の学生としてではなく、科目等履修生として、図書館・情報学専攻の科目を履修、または研究生として研究指導を受けることが可能です。

■ 大学院 科目等履修生

修士課程設置の科目の中で 10 単位(5 科目)までの単位の修得を目的として履修する、科目等履修生を受入れることがあります。毎年、春学期は 2 月下旬～3 月上旬に、秋学期は 8 月下旬～9 月上旬に出願を受付けています。履修した科目の試験を受け、合格すれば単位と成績を習得することができます。

■ 大学院 研究生

大学院の修士課程を修了した者を、指導教授のもとで研究指導を受けることを目的とする、研究生として受け入れることがあります。指導教授に相談し、願書等を提出し、文学研究科の許可が得られれば研究生となることができます。春学期は 2 月下旬～3 月上旬に、秋学期は 8 月下旬～9 月上旬に受付けています。研究生の身分だけでは授業の履修、単位習得をすることはできません。

⇒科目等履修生と研究生については下記に問い合わせして下さい。

慶應義塾大学 学生部文学研究科係

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

TEL: 03-5427-1555(直通)

受付時間 月～金(祝祭日を除く) 8:45～16:45

※ただし開校記念日(4/23)・夏季休業・冬季休業・福澤先生誕生記念日(1/10)は閉室

<https://www.students.keio.ac.jp/com/other/non-degree/>

■ 学部設置科目の履修

図書館・情報学専攻図書館・情報学分野への入学の際に司書資格等の資格を持っている必要はありません。しかし、大学院の授業では、図書館・情報学の体系的な基礎知識を有していることが必要とされます。そこで、第 1 学年のはじめに、各人のこれまでの科目修得状況を申告してもらい、認定することになっています。修得科目は、文学部図書館・情報学専攻第 2 学年に設置されている以下の科目を基本としています。

図書館基礎Ⅰ

図書館基礎Ⅱ

情報メディア基礎Ⅰ

情報メディア基礎Ⅱ

情報管理基礎Ⅰ

情報管理基礎Ⅱ

図書館・情報学文献研究Ⅰ

図書館・情報学文献研究Ⅱ

認定が受けられない場合には当該科目を履修することが義務づけられています。

また、図書館インターンシップ(図書館実習)未経験者は、学部設置された「図書館実習」を履修し、夏休み中に 2 週間の図書館実習を行うことになっています。

奨学金

■ 各種奨学金

慶應義塾大学および大学院の奨学制度としては以下のものなどがあります。

- 慶應義塾大学給付奨学金(学部向け:給付:年額 50 万円)
- 小泉信三記念大学院特別奨学金(大学院向け:給付:月額 3 万円)
- 研究のすゝめ奨学金(大学院向け:給付:年額 30 万円)

⇒他にも企業、三田会などから多数の奨学金が用意されています。詳しくは下記に問い合わせてください。

慶應義塾大学学生部福利厚生支援担当
〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45
TEL: 03-5427-1570(直通)
<https://www.students.keio.ac.jp/com/scholarships/apply/form.html>

■ 厚生労働省教育訓練給付制度の指定講座(専門実践教育訓練指定講座)

情報資源管理分野は厚生労働省より、専門実践教育訓練指定講座として指名されました。この制度により、基本的には、教育訓練施設に支払った教育訓練経費の 40%に相当する額が支給されます。詳細は、厚生労働省やハローワークのウェブサイトを参照してください。

■ ギトラー奨学金・小林奨学金

図書館・情報学専攻の学部学生、大学院図書館・情報学専攻の大学院生のための奨学金として、学科創設に尽力された故ロバート・L・ギトラー先生を記念した「ギトラー奨学金」と、故小林胖教授を記念した「小林奨学金」があります。「ギトラー奨学金」は学部4年生を対象として選考し、毎年1月に授与されます。「小林奨学金」は大学院修士課程修了者を対象として選考し、3月に授与されます。両賞の最近の受賞者は次の通りです。

年度	ギトラー奨学金	小林胖奨学金
1992 年	廣橋公子, 小和瀬智章	榛田倫子, 野末道子, 中嶋間多
1993 年	栗林美保子	村上篤太郎
1994 年	石神まり, 山田浩大	大谷康晴
1995 年	柏木美穂	廣田とし子
1996 年	田口靖子	(該当者なし)
1997 年	本島道也	金宣伶, 松林麻実子
1998 年	鞠子裕子	高島寧
1999 年	村上奈津子	(該当者なし)
2000 年	神村昌代, 矢木みさき	富岡麻理
2001 年	三根慎二, 渡邊春菜	塩崎亮
2002 年	松田千春	(該当者なし)
2003 年	宗愛子	三根慎二
2004 年	鈴木泉	(該当者なし)

修士課程・後期博士課程

年度	ギトラー奨学金	小林胖奨学金
2005 年	向當麻衣子	汐崎順子, 畠山珠美, 叶多泰彦
2006 年	平野ゆかり	粟村倫久, 桑原芳哉
2007 年	谷口朋, 猪鼻美帆	稲葉直也, 堤亮平, 宮田洋輔
2008 年	唐澤智之, 二村麻美子	小泉公乃
2009 年	寺田唯香	立石亜紀子, 新見槇子, 松本美智子
2010 年	斉藤彩	樋澤光紀, 三村沙矢香, 向當麻衣子
2011 年	南友紀子	郭ハナ, 杉内真理恵, 古橋英枝
2012 年	石川翔子, 市川亜里沙	田中希実, 松谷有美子
2013 年	丹生谷美貴	南友紀子
2014 年	中川紗央里, 松崎美優, 松本ひかり	近藤久美子, 鍋田義晴
2015 年	小紫友里奈, 佐藤康太, 丸山佳那子	岩瀬梓, 大越万里子, 大沢青加
2016 年	馬越あゆみ, 鈴木汐里, 田中めい	太田潤, 長谷川敦史, 若宮俊
2017 年	伊藤ゆめ奈	阿部恵子, 大久保歩, 吉澤小百合
2018 年	田頭実桜, 一村美穂, 椿野祥子	山本通正, 小林美貴, 原修
2019 年	若林優莉	門脇夏紀, 篠原弘照
2020 年	竹内希実	広江理紗子
2021 年	水谷文香	大江瞳, 紀平宏子, 原平充
2022 年	小松玲衣	佐藤正恵
2023 年	土岐茉里奈	山岡加奈, 片桐宏道
2024 年	上原正也	植田亜里沙
2025 年	廣田のどか	小林希

要覧 2026 年版

2026 年9月 25 日発行

編集・発行 慶應義塾大学文学部人文社会学科 図書館・情報学系 図書館・情報学専攻
慶應義塾大学大学院 文学研究科 図書館・情報学専攻
〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

e-mail slis-info-group@keio.jp

<https://slis.flet.keio.ac.jp>

**School of Library and Information
Science
Keio University**

**e-mail: slis-info@ml.keio.jp
<https://slis.flet.keio.ac.jp/>**